

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4571700626		
法人名	有限会社 坂元		
事業所名	グループホーム城山苑		
所在地	宮崎県都城市山之口町山之口3940番地 (電話) 0986-54-2867		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年10月16日	評価確定日	平成20年11月28日

【情報提供票より】 (平成20年9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年1月14日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤8人, 非常勤12人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成20年9月15日現在)

利用者人数	18名	男性 5名	女性 13名
要介護1	5	要介護2	4
要介護3	7	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 86.8歳	最低 74歳	最高 100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	志々目医院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

歴史ある街のふもとにある「城山苑」の名の由来はすぐ近くにある城山城跡からきており、緑に囲まれた閑静な住宅地に立地している。地域の方々を対象とした講演会の開催や、地区運動会、地区敬老会への参加も積極的に行っている。また、ホーム主催の祭りに近隣の住民を招くなど交流に努めている。支援する側される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活が送れるように場面づくりや利用者と同じ視点でさりげない声かけが行われている。また、同性介護を基本とし、利用者を傷つけないように、さりげない声かけや対応が行われ、プライバシーが損なわれないよう配慮がされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題(①地域とつきあい検討 ②自分の居室を確認するための表札の高さの検討)は外部評価直後に改善されているが、改善計画シート等を活用した計画的な取り組みに至っておらず、管理者のみで対応しており、全職員で取り組むまでには至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表は管理者のみが作り上げ、全職員が評価する機会が設けられていなかった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議で取り上げられた検討事項や意見は、ホーム全体の問題として前向きに改善していく姿勢がある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、担当職員より手書きの手紙や写真を送り利用者の様子を知らせている。また、ホームのホームページも作成し行事などを掲載している。家族の来訪時にも声掛けを行い近況を知らせている。運営推進会議、家族会(平成19年度立ち上げ)、ケアカンファレンス等を通じ意見が出しやすい雰囲気作りに努めている。玄関に意見箱を設置し、直接言い難い内容であっても反映させる体制がある。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方々を対象とした講演会(高齢者の健康について等)の開催や、地区運動会、地区敬老会への参加も積極的に行っている。また、ホーム主催の祭りに近隣の住民を招くなど交流に努めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年の改正介護保険法で新設された、地域密着型サービスの役割を職員全員で理解するまでには至っておらず、「地域の中でその人らしく生活する事を支えるケア」の具体的なイメージを持って作られた理念とは言いがたい。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域との関係性強化をうたった理念を作られることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、朝の申し送りのなか（唱和）で理念に触れ、全職員が理念を具体化していくことを意識した取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民を対象とした講演会（高齢者の健康について等）の開催や、地区運動会、地区敬老会への参加も積極的に行っている。また、ホーム主催の祭りに近隣の住民を招くなど交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善計画シート等を活用した計画的な取り組みに至っていない。前回の外部評価後、改善に向けての取り組みを行ったとのことだが、全職員で取り組むまでには至っていなかった。自己評価表は管理者のみが作り上げ、他職員が評価する機会が設けられていなかった。	○	サービス評価の意義や目的を全職員へ伝え、職員全員で自己評価に取り組む体制を望みたい。また、外部評価を踏まえ、改善計画シートを活用した計画的な取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項や意見は、ホーム全体の問題として前向きに改善していく姿勢がある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が行っている介護相談員派遣事業の利用（受け入れ）や、月に1度は市職員が来訪される等、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当職員が手書きの手紙や写真を送り利用者の様子を知らせている。また、ホームのホームページも作成し行事などを掲載している。家族の来訪時にも声かけを行い近況を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会（平成19年度立ち上げ）、ケアカンファレンス等を通じ意見が出しやすい雰囲気作りに努めている。また、意見箱も設置し、直接言い難い内容であっても反映させる体制がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動が不定期（職員退職に伴う異動）で行われている。異動については、利用者、家族との信頼関係を築く上でもなじみの職員が対応することが好ましいとの考えを持ち、常々から互いのユニット間で交流を図る等の配慮がなされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内・外の研修計画が具体的に立てられ、希望する研修にも参加できる等、多くの職員が受講できる体制づくりが行われている。研修に参加した職員は復命書の提出が義務付けられ発表する機会も設けられている等、研修内容の共有化が図られる体制がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に加盟しているものの、他ホームとの実践的な交流が図られるまでには至っていない。	○	他グループホームの見学や相互研修会等を通して、事業所外の人材の意見や経験をケアに生かし、質の向上を目指してほしい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学をしてもらうことから始め、職員が自宅に出向いたり、本人や家族がホームの雰囲気を楽しむことができる体制がある。希望者は生活体験もできる等、利用者が徐々になじめる工夫がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活が送れるように場面づくりや利用者と同じ視点でさりげない声掛けを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者が過ごしやすいようにとの思いを職員は持ち、できるだけ希望に沿った生活が営めるようにセンター方式を使用し、利用者の情報を本人本位で検討して生活を支援する取り組みがされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービスや介助項目が羅列した介護計画書となっており、地域の中で暮らし続けるための項目がない。また、家族の気づきや意見が少なく要望を反映した介護計画書になっていない。	○	地域でその人らしく暮らし続けることを支えていくための介護計画となるように、利用者本人をよく知っている家族と話し合った結果を反映して作ってほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間にとらわれない臨機応変な見直しは行われていない。家族との協議もほとんどが電話対応である。また、カンファレンス等の記録が鉛筆書きになっており、いつでも修正できる状態であった。	○	介護計画の見直しは、利用者本人、家族、関係者等が話し合う機会を作り、その時々気づきや意見を最大限に反映させた対応となることを期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者家族からの要請（ホームの役にたいたいとの思い）で6日間寝食を共に過ごされるケースもあったが柔軟な姿勢で受け入れ支援を行っている。墓参りへ行きたいとの声にも対応し、要望によっては通院支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期往診と家族の協力を得て年1回健康診断が行われている。また、家族主体の受診であるが利用者の病状により臨機応変に職員も家族と同行し、情報を共有する等の支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期を迎えるうえでホームとしての方針を定めホーム内研修を行っている。また、早い段階から家族、関係医療機関の医師、看護師を交えての話し合いが繰り返し行われ、全員が方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	同性介護を基本とし、利用者を傷つけないように、さりげない声かけや対応が行われプライバシーが損なわれない配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが持っている生活リズムを大切に、何を望んでいるか日々確認しながら希望に沿った生活が送れるようにさりげない支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は料理の下ごしらえから、盛り付け、食事、後片づけに至るまで利用者と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意向を第一に、体調に配慮した上での入浴支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式を用いて利用者一人ひとりの力を見出し、得意としている事、不得意としている事を日々の暮らしの中で把握するとともに、これまでの経験や知恵が発揮できる場面を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩は欠かさず行い、利用者によっては元住んでいた家周辺をドライブする等の支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常々の会話の中やケアの中で職員教育が行われている。門および、玄関、建物内の扉等、鍵はかけられていない。運営者を含む全ての職員が鍵をかける事での弊害を理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定された火災訓練（年2回）は地元の消防団にも協力をもらい行われているものの、訓練そのものが夜間想定のみで、地震や水害等の訓練は行われていない。防火・災害時マニュアルが整備されておらず緊急時の対応に不安がある。	○	防災・災害時マニュアルを作成し、地域との連携の強化を図り、災害時対策に関する理解を全職員で深め具体的な支援体制の整備に取り組んでもらいたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養バランス、摂取量や水分摂取量が一日を通じて確保がされ記録として残されている。また、体調や運動量に応じて介助の方法を変える等、職員全員が常に意識した支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はとても明るく、不快な匂いや音、明るすぎたり暗すぎたりと気になる点もない。フロアの飾りつけや家具の配置は自然体で生活感や季節感があふれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使いなじんだ家具類が持ち込める環境があり、本人が居心地よく過ごせるしつらえがされている。居室によっては仏壇が持ち込まれ、いつまでも故人をしのぶことができる温かな雰囲気がある。		

※  は、重点項目。